

読むこと教材(説明文)

「ウナギのなぞを追って」(四年下)
— 画像と文章を関連させながら読むことで、読みを深める —

「デジタル教科書を導入したもの、どのような場面を使うとよいのか悩むことはないでしょうか。今号からスタートする本連載では、授業のどんなところで『国語デジタル教科書』を使えばよいのか、またそれによって、どのような効果が得られるのかをお伝えします。

四年下の教科書で学習する「ウナギのなぞを追って」は、子どもたちの知的好奇心をくすぐり、興味をもって読むことができる科学読み物です。子どもたちはまず、自分たちにとって身近な生き物であるウナギが、実は多くの謎に包まれていることを知って驚きます。そして、謎を解明していくドキュメント番組のような展開で書かれた文章に引き込まれていくという、とても魅力的な教材です。しかし、その一方で、時系列に沿って事実を整理したり、話題のまとまりごとに整理したりしながら読んでいくことができないと、子どもたちにとって難しく感じる教材でもあります。子どもたちが、最

指導目標

- ◎自分が興味をもったところを紹介するために、文章の内容を的確に押さえて要旨を捉えたり、事実と感想、意見などとの関係を押さえ、自分の考えを明確にしながら読んだりすることができる。【読(1)イ、エ】【伝国(1)イ(ア)】
- 文章を読んで考えたことを発表し合い、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。【読(1)オ】

指導計画(全8時間)

第1次	1時	学習の見通しをもち、学習計画を立てる。
		デジタル教科書の活用場面① 子どもたちの知的好奇心をくすぐる。
第2次	2時	目的に沿って、文章を深く読む。
	3時	・事実を時系列に沿って整理しながら読む。 ・画像についての説明を考えながら読む。 (グループで学び合い)
	4時	デジタル教科書の活用場面② 事実と考えの記述に気をつけながら、調査の道筋を読み取ったり、調査内容を捉えたりする。
第3次	5時	最も興味をもったところを中心に文章を要約する。
		デジタル教科書の活用場面③ 要約や紹介文を書く活動につなげる。
	6時	興味をもったところについて、自分の考えと関連させながら紹介文を書く。
	7時	紹介文を読み合って感じたことを伝え合い、考えを深める。
	8時	学習を振り返る。



1974年生まれ。広告代理店勤務を経験した後、27歳で公立小学校教諭に。横浜市小学校国語研究会を中心に市内の国語教育推進に取り組む。平成24年度文部科学大臣優秀教員に選ばれる。

文章中の-----は、「国語デジタル教科書」に収録されている資料や機能です。

初に抱いた興味を最後までもち続けられるようにするために、次のような手立てを考えました。

- ①子どもたちの知的好奇心をくすぐるための手立て
- ②事実と考えの記述に気をつけながら、調査の道筋を読み取ったり、調査内容を捉えたりするための手立て
- ③要約や紹介文を書く活動につなげる手立て

これらの手立てをより効果的なものにするために、デジタル教科書を活用していきます。

デジタル教科書の活用場面①
子どもたちの知的好奇心をくすぐる

デジタル教科書には、資料として、画像や動画が収録されています。この教材では、「たまご」からウナギが出てくる瞬間「や」ウナギの成長の様子」など、文章だけではなかなかイメージしにくい箇所について、多くの資料が収録されています(※1)。特にウナギの調査を追った動画は、文章で読み取ったことを確認するための資料として有効です。

まず、単元の導入として、本文を読

む前に、ワーク「はじめに」(※2)を使い、ウナギについて知っていることを出し合いました。「ウナギのたまご」の写真を見た子どもたちは、自分たちが知っているウナギとはなかなか結び付かない卵の姿に興味津々でした。さらに、「広い海の様子」の写真を見て、そもそもウナギが海で卵を産むことを知らないという子が多く、意外な事実に驚いていました。「ウナギは川にすんでいるイメージがあるけど、どうして海で卵を産むのか」「広い海のどこで卵を産むかなんて、どうやって見つけるのだろう。見つかるのかな」など、数々の疑問が生まれました。ウナギについての関心が高まったところで、文章を読む前に「ウナギの調査」の動画を見せ、内容のイメージをもたせるという方法も考えられますが、あえてこの動画は、単元の出口のところで見せることにしました。なぜなら、調査の様子は、言葉を手がかりにしながらイメージしてほしいと考えたからです。文章の中には、「周りに島一つ見えない海の真ん中」「あざやかなぐんじょう色の海」などの叙述が出てきます。これらの叙述をもとにしながら、子どもたちなりに海をイメージすることを大切にしたいと考えました。また、多くの時間と労力をかけ



▲※2 「ウナギのなぞを追って」のワーク「はじめに」



▲※1 「ウナギのなぞを追って」の資料一覧

デジタル教科書の活用場面②

デジタル教科書の活用場面

しよいかい文を書きました。

なんの
結び

感想

「研究に長い時間がかかること」を、を中心にした
しよいかいの例)

一九三〇年ころ、たまごを産む場所
をさがす調査が始まりました。三十年
以上すぎた一九六七年、五十四ミリー
メートルのウナギの赤ちゃんが、見つかり
ました。

その後、一九九一年、北赤道海流の
中で、十ミリメートル前後のウナギの
赤ちゃんがとれました。

しよいかい文を書きました。

感想

「研究に長い時間がかかること」を、を中心にした
しよいかいの例)

一九三〇年ころ、たまごを産む場所
をさがす調査が始まりました。三十年
以上すぎた一九六七年、五十四ミリー
メートルのウナギの赤ちゃんが、見つかり
ました。

その後、一九九一年、北赤道海流の
中で、十ミリメートル前後のウナギの
赤ちゃんがとれました。

「一九〇〇年ごろ、日本は、大正維新の波が押し寄せた。日本は、大正維新の波が押し寄せた。」

「一九〇〇年ごろ、日本は、大正維新の波が押し寄せた。日本は、大正維新の波が押し寄せた。」

「一九〇〇年ごろ、日本は、大正維新の波が押し寄せた。日本は、大正維新の波が押し寄せた。」

「一九〇〇年ごろ、日本は、大正維新の波が押し寄せた。日本は、大正維新の波が押し寄せた。」

「一九〇〇年ごろ、日本は、大正維新の波が押し寄せた。日本は、大正維新の波が押し寄せた。」

「一九〇〇年ごろ、日本は、大正維新の波が押し寄せた。日本は、大正維新の波が押し寄せた。」

「一九〇〇年ごろ、日本は、大正維新の波が押し寄せた。日本は、大正維新の波が押し寄せた。」

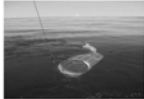
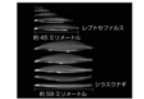
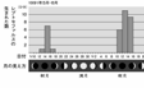
「一九〇〇年ごろ、日本は、大正維新の波が押し寄せた。日本は、大正維新の波が押し寄せた。」

「一九〇〇年ごろ、日本は、大正維新の波が押し寄せた。日本は、大正維新の波が押し寄せた。」

大東亜戦争
太平洋戦争

大東亜戦争
太平洋戦争

※ 5 の例文は、どの叙述に着目して要約しているのか、マーカーを引いて示す。そして、該当する例文を吹き出しに入れて貼付。

プ内で共有しました。この活動を通して画像と文章を結び付けながらより深く読むことと、グループ内で調べたことを共有することで理解できなかったところや疑問点を学び合いによって解決することを意図しました。子どもたちは、自分が担当した画像に関する叙述をよく読みまとめることができました。さらに、まとめたことをグループの友達と交流することを通して、内容の理解を深めることができました。関連する画像は、教科書に掲載されているものや、デジタル教科書の資料として豊富に収録されているものの中から、この文章の中心となる内容に関連するものを選びました。

デジタル教科書を活用して

デジタル教科書には魅力的な画像や動画が多く収録されています。しかし、これらの素材を有効に活用するためには、何を、どの場面で、どのような形で提示するのかなど、授業のねらいに沿って、意図的に活用していく必要があります。あくまでも子どもたちが言葉を介して理解していくことを大切にしながら、子どもたちの理解の助けになったり、さらに理解を深めたりするツールとして画像や動画を活用していくという視点が大切です。

今回の単元で取り組んだ要約は、苦手とする子どもが多い言語活動です。要約をするときに、子どもたちが悩むのは、どの文を選んでよいのか、どうやって自分の言葉で短くまとめればよいのかという点です。要約の例文を示すだけではなかなか要約ができるようにはなりません。要約をする過程を、デジタル教科書を使って、視覚的に分かりやすく説明していくことで、子どもたちは、要約の手順を具体的に理解することができました。教科書の文章を示しながら、子どもたちと一緒に、リアルタイムで要約の過程を共有していくことは、デジタル教科書だからこそできることだと思います。